

## 講演要旨

### ① 「ネパール、ムスタンの旅」 - 雲南懇話会第 11 回フィールドワークの記録、2016 年 4 月 -

桐蔭会山岳部 OB 会、京都大学学士山岳会 (AACK) 遠藤 州

ネパール中部、チベットとの国境に位置するムスタンは、1991 年まで外国人の入域が禁止されていた。近年、入域者数は増加しているものの、日本人に限れば年間入域者数は最近でも 100 人に満たず、あまり知られていない地域である。報告者らは 2016 年 4 月にムスタンを訪問した。発表では、旅の概要を報告するとともに、一登山愛好家として興味を引かれたいくつかのテーマについて、ムスタンの今を紹介する。

### ② 「インド・シッキム州、カンチェンジュンガ東面の山旅、2016 年 4 月」 - 困難な入域、

ゼム氷河、シニオルチューの麗姿のことなど - 雲南懇話会幹事、薔薇愛好家 頭師 正子

2016 年 4 月、ネパールとインド・シッキム州との国境にある世界第 3 位の高峰カンチェンジュンガ（標高 8586m）東面、ゼム氷河のレストキャンプ（4500m）に滞在した。ここは世界最美の山と言われたシニオルチューのベースキャンプ地で 1970 年代までは容易に入山出来たが、最近では環境保護と聖山という理由で入山が困難になった地域である。私たちは今年最初の入山者で、リーダー以下高齢者 11 人のトラブル続きの山旅の様子を紹介します。

### ③ トピック「転換期にあるミャンマーの今、その素顔」 - アウンサンスーチー女史への期待 -

NPO 法人“小水力発電をミャンマーの農村へ”代表理事、神戸大学名誉教授 大津 定美

- ・「NLD 圧勝」、選挙結果の受け止め、「あまりにもスムーズ?」、その後の政権移行のプロセスも極めて民主主義的に、それが可能となった背後に何が?
- ・新政権の経済政策は? 経済開放と産業開発、豊富な資源と低開発、旧政権関係者の経済実態支配、外資の進出とそのコントロール、日本の役割は?
- ・「国家顧問」への過大な期待? 短期の経済改善困難と国民大衆の「裏切られ感」の危険性、さらに「少数民族との和平(第 2 パンロン会議)」という「世紀の課題」は?

### ④ 「ヒマラヤ地震博物館」 - ネパール・ヒマラヤの環境変動研究から考える -

カトマンドウ大学客員教授、滋賀県立大学名誉教授、北海道大学山の会 (AACH) 伏見 碩二

1965 年からのネパール・ヒマラヤ調査で、3 つの自然災害を体験することができた。

1) 1977 年 9 月 3 日のクンプのミンボー氷河湖の決壊洪水と 2) 2012 年 5 月 5 日のポカラのセティ川洪水、そして 3) 2015 年 4 月 25 日のカトマンズ周辺のゴルカ地震である。いずれも発生直後に現地調査を行ったので、ヒマラヤの環境変動研究から考えたそれらの自然災害の特徴とポカラの国際山岳博物館の課題も明らかにしたうえで、ヒマラヤ地震博物館を構想した。

### ⑤ 「中国の水資源・水環境をめぐって」 - 沿岸部と内陸部の対比から -

総合地球環境学研究所教授、AACK 窪田 順平

改革開放政策以降、近年の中国の経済成長はめざましいが、その代償として多くの環境問題に直面してきた。水に関しても、1990 年代の黄河断流、長江大洪水をはじめ、2007 年におきた太湖のアオコ大発生による長期の取水制限など、量と質の両面で問題が顕在化した。三峡ダムや南水北調や太湖で行われた水汚染対策など、国家的な取組が行われた中国の水の量と質に関して、西北部乾燥地域や太湖等具体的な事例を取り上げて、現状を報告する。